

平成29年度

平成29年度の各会計の決算と、 決算を元にした市の財政状況などをお知らせします。

平 成29年度一般会計の歳入決算額は、411億3500万円（前年比1.2%の減）、歳出決算額は、404億2800万円（前年比1.2%の減）で、形式収支は7億700万円となりました。翌年度繰越財源3500万円を除いた実質収支額は、6億7200万円の黒字となりました。

歳入

個 人市民税については納税義務者の増加、固定資産税では新増築家屋と償却資産の増加により2億500万円の増額、法人市民税については一部の製造業において落ち込みがありました。経済の好循環により1900万円の増額となりました。

譲与税関係では、地方消費税交付金が7100万円の増額となりました。

地方交付税は、平成28年度から合併算定替えと一本算定との差額の減額が始まり、平成29年度は30%の縮減率で3億6200万円の減額、全体では4億9200万円の減額となりました。

となりました。

諸収入等については、財政調整基金を繰り入れなかったことによる5億5900万円の減額などにより全体では9億800万円の減額となりました。

歳出

総

務費については、公共施設整備基金積立金が1億7300万円の増額に対し、地域振興基金積立金1億円、ふるさと寄附基金積立金4300万円、ふるさと寄附返礼記念品3200万円、豊科・穂高支所等整備事業4億6000万円の減額などにより、4億7000万円の減額となりました。民生費については、臨時福祉給付金1億2500万円減額に対し、認定こども園整備事業（アルプス・明科南・三郷北部・たつみ）で4億8900万円の増額などにより、5億700万円の増額となりました。

衛生費については、穂高広域施設組合負担金3000万円、安曇野松塩筑広域環境施設組合負担金2200万円の減額などにより、9200万円の減額となりました。

農林水産業費については、産地パワーアップ交付金7700万円、松枯損木伐倒処理費6800万円などの減額により、3億5000万円の減額となりました。商工費については、しゃくなげの湯

決算公表

●グラフの説明（主なもの）

歳入内訳

市 税	市民税や固定資産税など
地方譲与税等	国が徴収した税の配分金など
地方交付税	全国どここの市町村でも一定のサービスが受けられるようにするため、人口や税収などに応じて国から配分される普通交付税と個別の財政需用に対する特別交付税がある
国県支出金	特定の目的のために国や県から交付された補助金など
市 債	施設整備の財源となる市の借入金

歳出内訳（目的別）

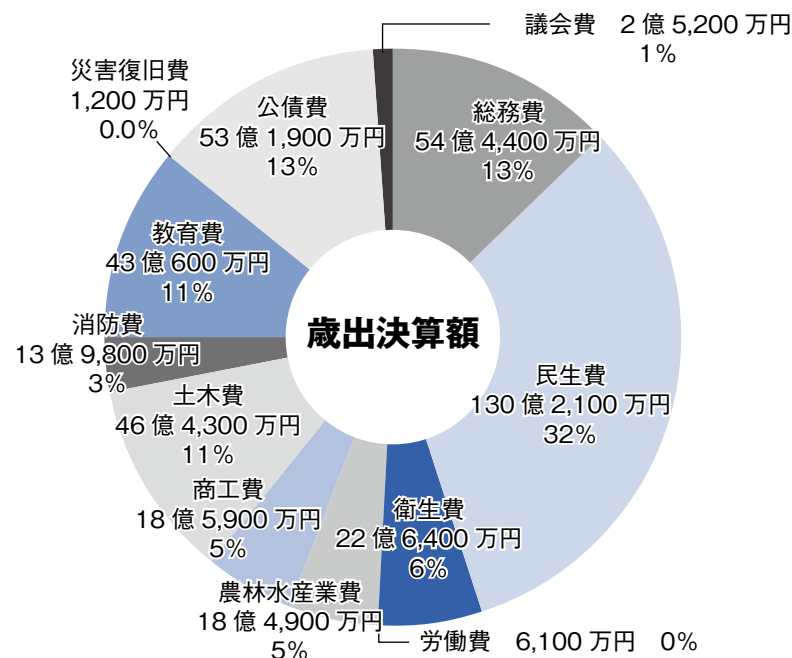
議 会 費	議会の運営に使う経費
総 務 費	人事、徴税、戸籍、選挙、交通安全など、市の総括的な事務事業に使う経費
民 生 費	障がい者福祉、児童福祉、高齢者福祉、福祉医療、国民年金など福祉全般に使う経費
衛 生 費	健診や予防接種、ごみ処理など、安全で衛生的な生活のために使う経費
農林水産業費	農道や農地の整備、農業や林業の活性化などに使う経費
商 工 費	商工業や観光の振興に使う経費
土 木 費	道路、橋りょうや河川、公園の整備運営などに使う経費
消 防 費	消防活動・水防対策に使う経費
教 育 費	教育全般に使う経費
公 債 費	市が借入（市債）した利息の支払いや元本の返済費用

（グラフ2）

一般会計の歳出（前年度比）

歳出 404 億 2,800 万円（1.2%減）

歳出内訳（目的別）

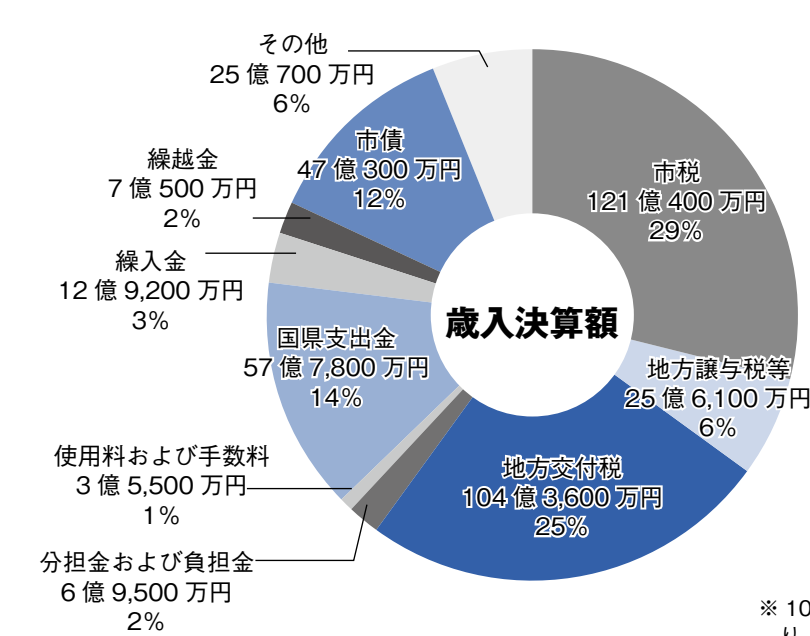


（グラフ1）

一般会計の歳入（前年度比）

歳入 411 億 3,500 万円（1.2%減）

歳入内訳



※ 100 万円未満四捨五入により、合計額は一致しません。